

「2019 年台風第 15 号・19 号に対する台風防災対策のアンケート調査」

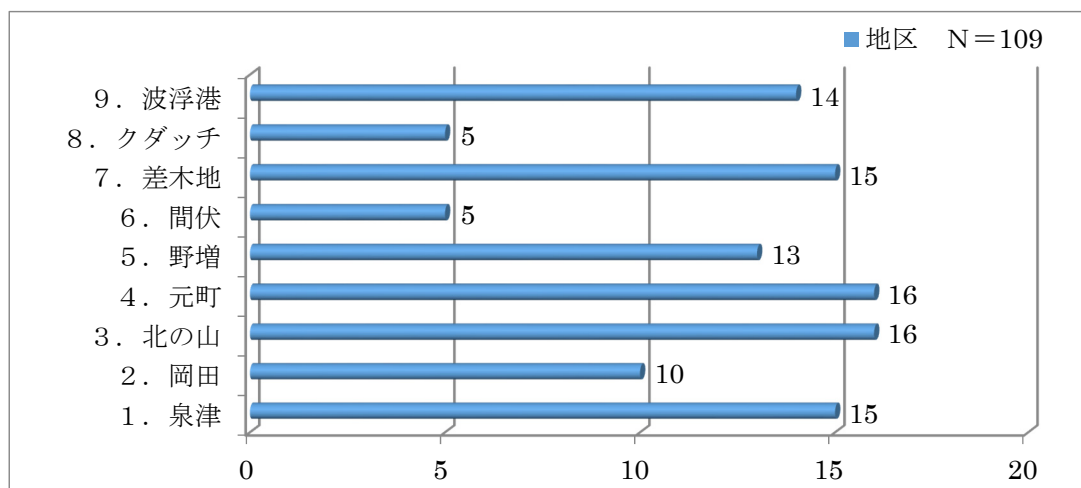
2019 年 10 月 23 日～31 日に大島町 7 地区において「自主防災組織地域防災連絡会」を開催し、台風防災対策に関するアンケート調査を行った。アンケートの回答者は、自主防災組織役員と一般参加の住民で、回答率は 98%（109/111 名）であった。

以下にアンケートの質問と回答の集計結果を示す。

グラフ中の棒グラフ横の数字は回答者数または回答数、右上の N の数字は回答者数の合計または回答数の合計を示す。

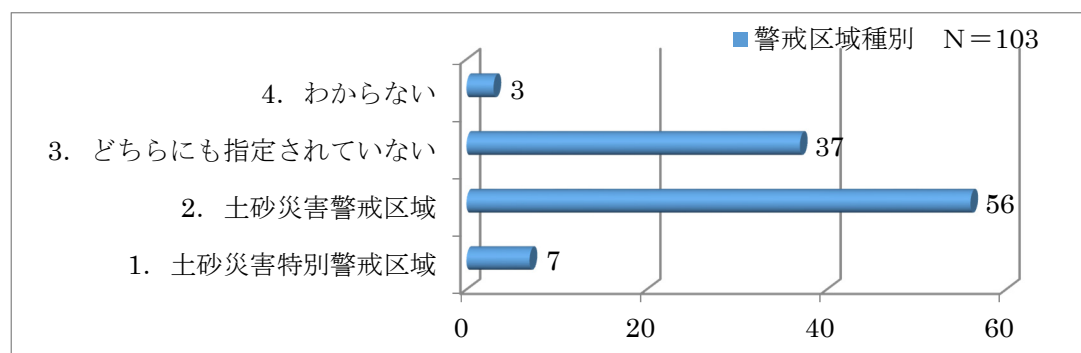
【問 1】 お住まいはどちらでしょうか。

1. 泉津 2. 岡田 3. 北の山 4. 元町 5. 野増
6. 間伏 7. 差木地 8. クダッチ 9. 波浮港



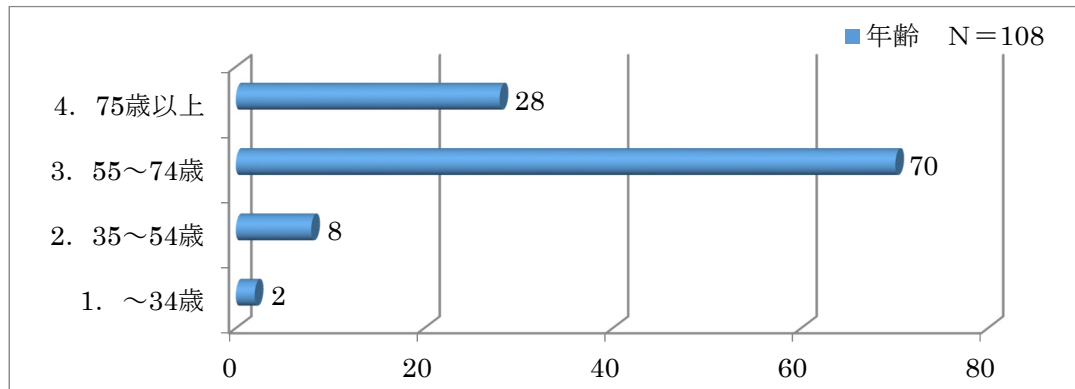
【問 2】 あなたのお住まいは、次のどれに該当するでしょうか。

1. 土砂災害特別警戒区域
2. 土砂災害警戒区域
3. どちらにも指定されていない
4. わからない



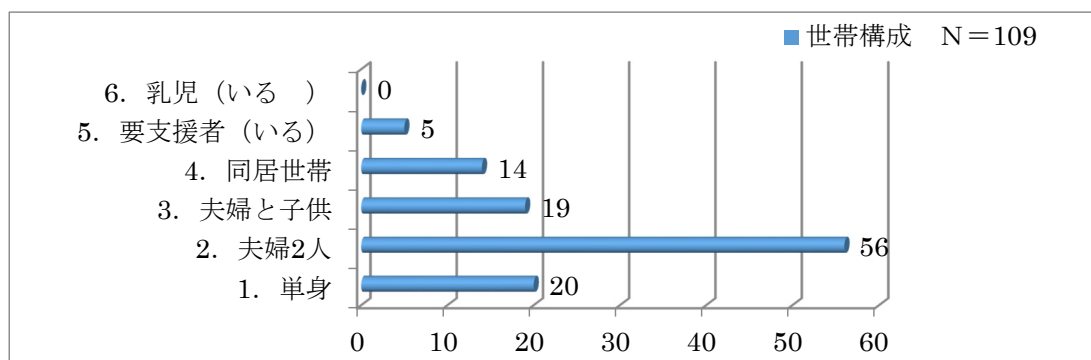
【問 3】年齢

1. ～34 歳
2. 35～54 歳
3. 55～74 歳
4. 75 歳以上



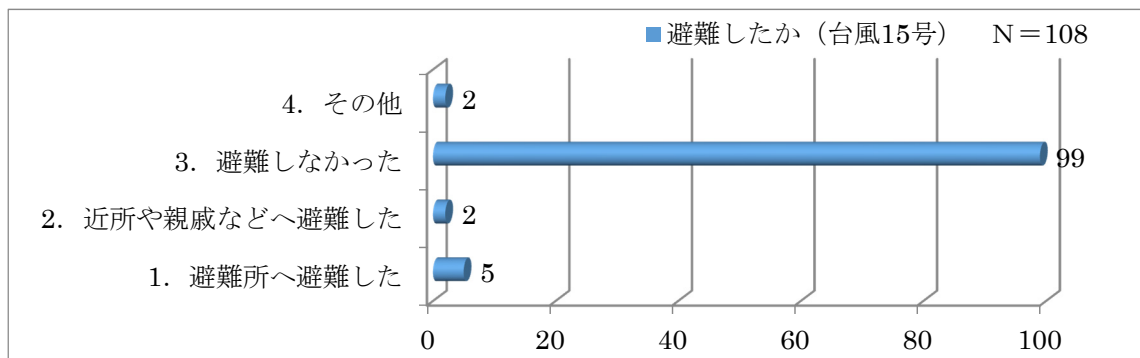
【問 4】世帯構成を教えてください。

1. 単身
2. 夫婦 2 人
3. 夫婦と子供
4. 同居世帯
5. 要支援者（いる）
6. 乳児（いる）



【問 5】今回の台風第 15 号では、土砂災害特別警戒区域に避難勧告を発令し、土砂災害警戒区域に避難準備・高齢者等避難開始を発令しました。あなたは避難しましたか。

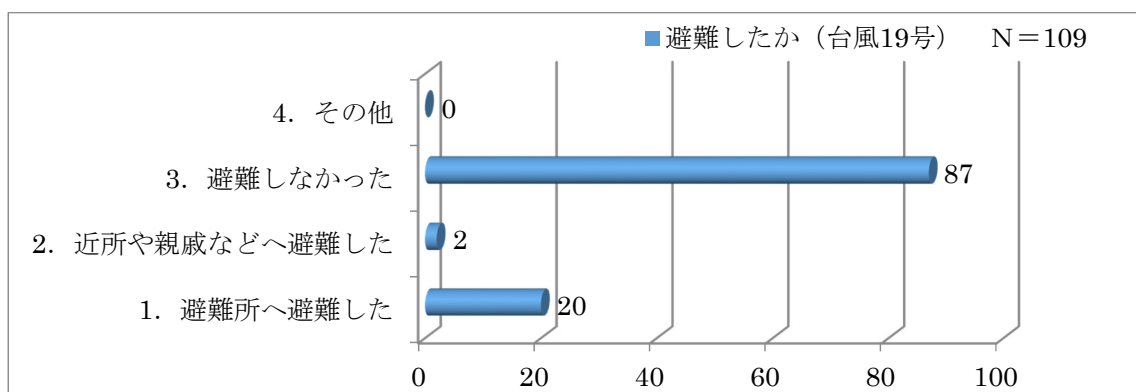
1. 避難所へ避難した
2. 近所や親戚などへ避難した
3. 避難しなかった
4. その他



避難しなかった人が 92%（99/108 名）を占める。避難したのは 6%（7/108 名）で、うち 2 名は近所や親戚宅へ避難した。その他の 2 名は当日に上京中で不在であった。

【問 6】今回の台風第 19 号では、大島町全域に避難勧告を発令し、土砂災害特別警戒区域に避難指示を発令しました。あなたは避難しましたか。

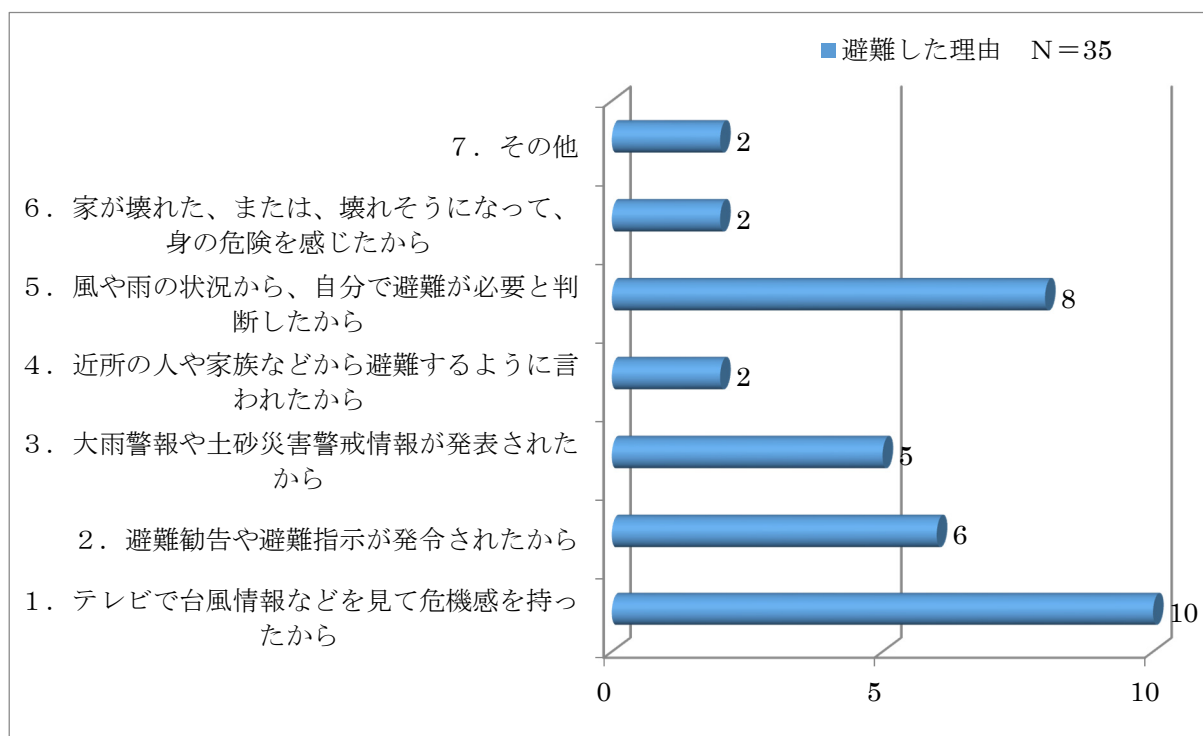
1. 避難所へ避難した
2. 近所や親戚などへ避難した
3. 避難しなかった
4. その他



避難しなかった人が 80%（87/109 名）である。避難した人は 20%（22/109 名）で台風第 15 号の時よりも約 3 倍増えている。

【問 7】避難した方に伺います。避難した理由は次のどれでしょうか。

1. テレビで台風情報などを見て危機感を持ったから
2. 避難勧告や避難指示が発令されたから
3. 大雨警報や土砂災害警戒情報が発表されたから
4. 近所の人や家族などから避難するように言われたから
5. 風や雨の状況から、自分で避難が必要と判断したから
6. 家が壊れた、または、壊れそうになって身の危険を感じたから
7. その他

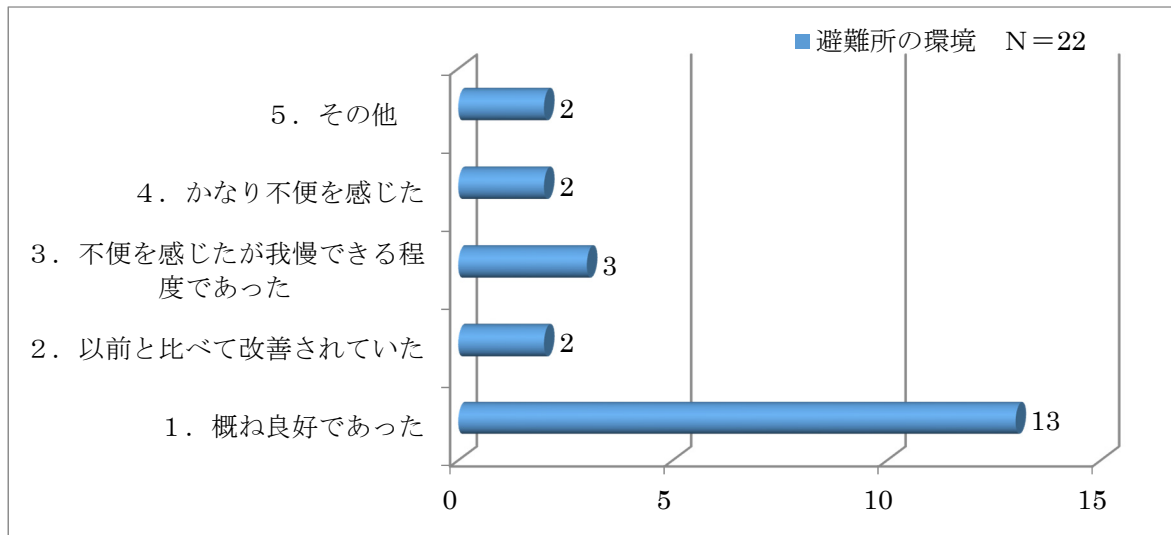


(複数回答あり)

テレビを見て危機感を持ったからが最も多く 29% (10/35)、避難勧告が発令されたからは 17% (6/35) である。台風情報、雨の状況、身の危険を感じてなど自分で避難の判断をしたのは 57% (20/35) で、避難勧告や大雨警報が発表されたから避難した 31% (11/35) よりも多い。

【問 8】避難した方に伺います。避難所の環境はいかがでしたか。

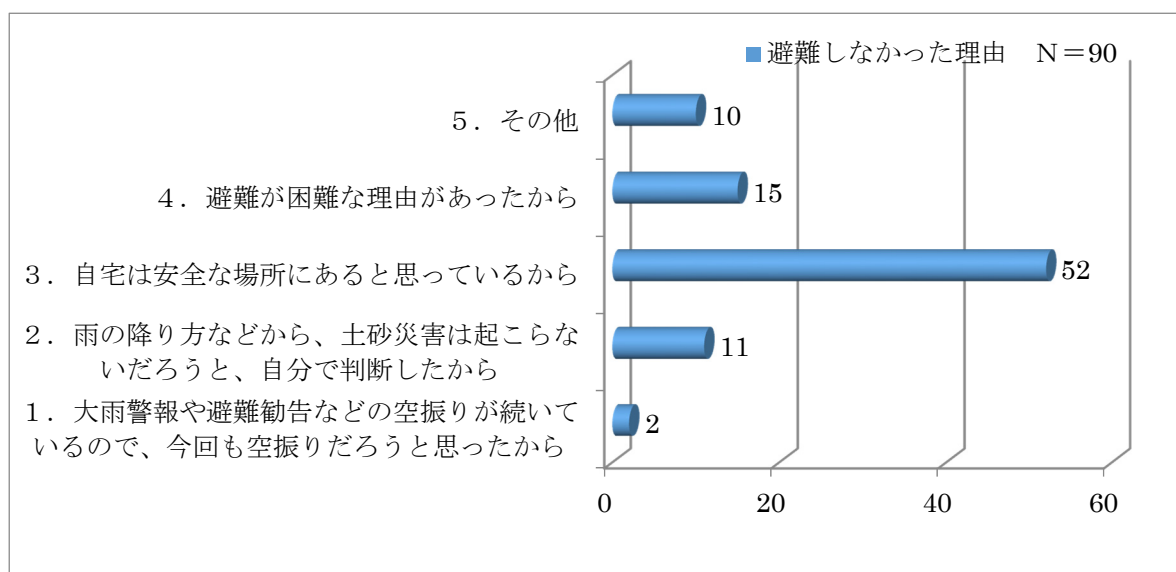
1. 概ね良好であった
2. 以前と比べて改善されていた
3. 不便を感じたが我慢できる程度であった
4. かなり不便を感じた
5. その他



59%（13/22 名）が概ね良好であったと答えている。一方、かなり不便を感じたのは 9%（2/22 名）であった。避難所の環境については、「我慢できる+改善されていた+概ね良好であった」が 82%（18/22 名）となっている。

【問 9】避難しなかった方に伺います。避難しなかった理由は次のどれでしょうか。

1. 大雨警報や避難勧告などの空振りが続いているので、今回も空振りだろうと思ったから
2. 雨の降り方などから、土砂災害は起こらないだろうと、自分で判断したから
3. 自宅は安全な場所にあると思っているから
4. 避難が困難な理由があったから → 問 10 へ
5. その他

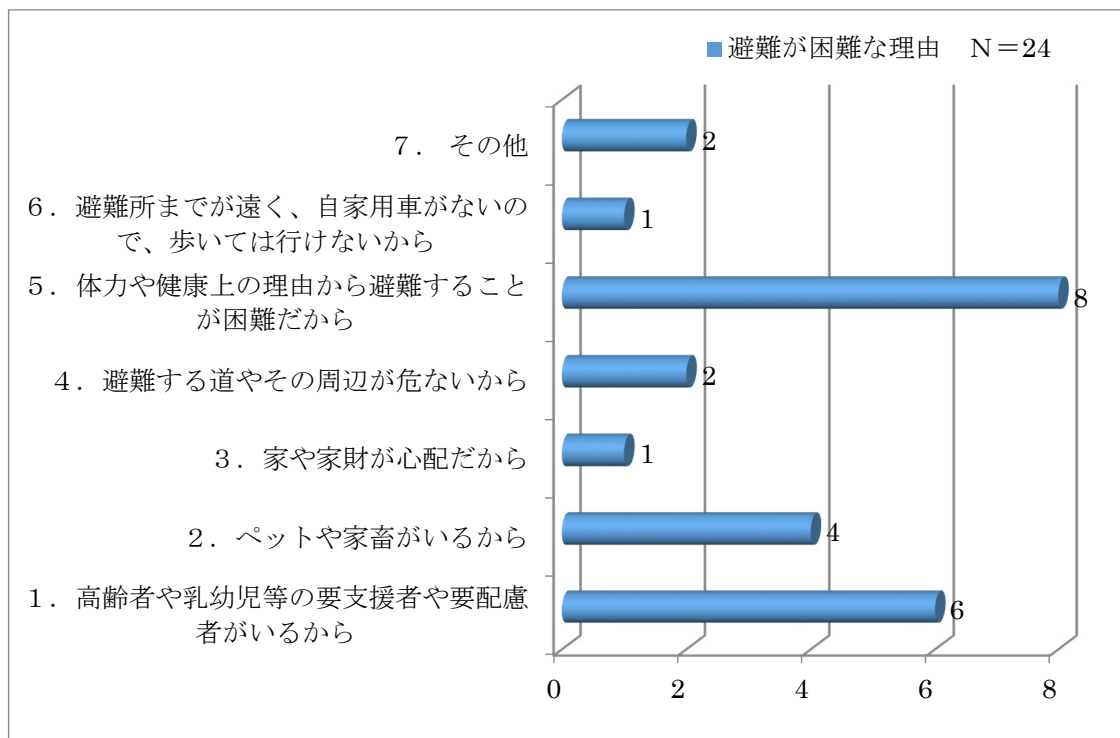


(複数回答あり)

自宅が安全と思って避難しなかったが最も多く 58% (52/90) である。土砂災害は起こらないだろうと自分で判断して 12% (11/90) と空振りだろうと思って 2% (2/90) の両者を足すと 14% (13/90) になる。避難が困難な理由があったからは 17% (15/90 名) である。

【問 10】避難が困難な理由があると回答した方に伺います。避難が困難な理由に当てはまるものにいくつでも○を付けてください。

1. 高齢者や乳幼児等の要支援者や要配慮者がいるから
2. ペットや家畜がいるから
3. 家や家財が心配だから
4. 避難する道やその周辺が危ないから
5. 体力や健康上の理由から避難することが困難だから
6. 避難所までが遠く、自家用車がないので、歩いて行けないから
7. その他



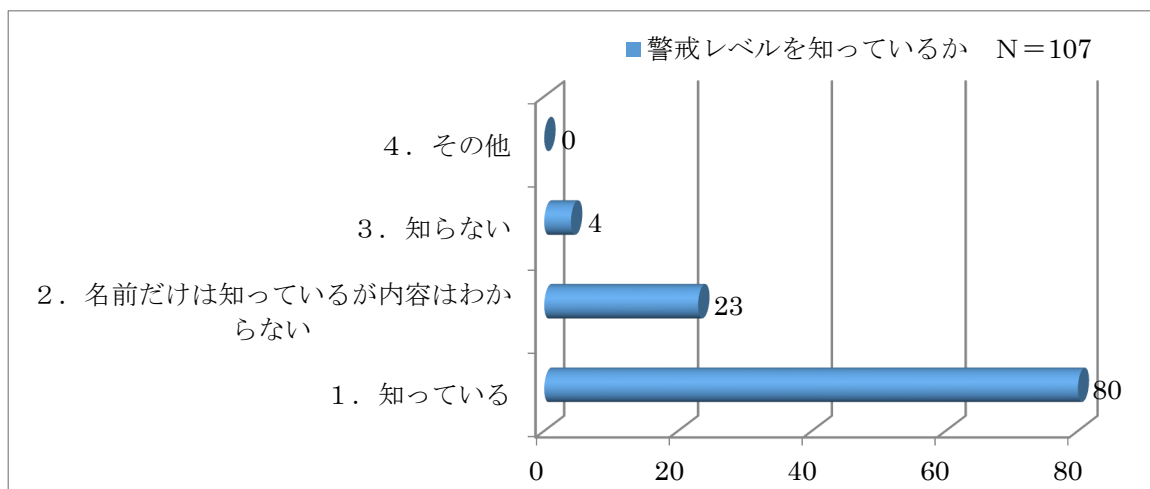
(複数回答)

体力や健康上の理由が最も多く 33% (8/24)、高齢者や乳幼児等の要支援者や要配慮者がいるからが 25% (6/24)、ペットや家畜がいるからが 17% (4/24) である。避難する道やその周辺が危ないからが 8% (2/24) あった。

【問 11】は、【問 15】の次に記載した。

【問 12】あなたは、避難行動に関する警戒レベルをご存知ですか。

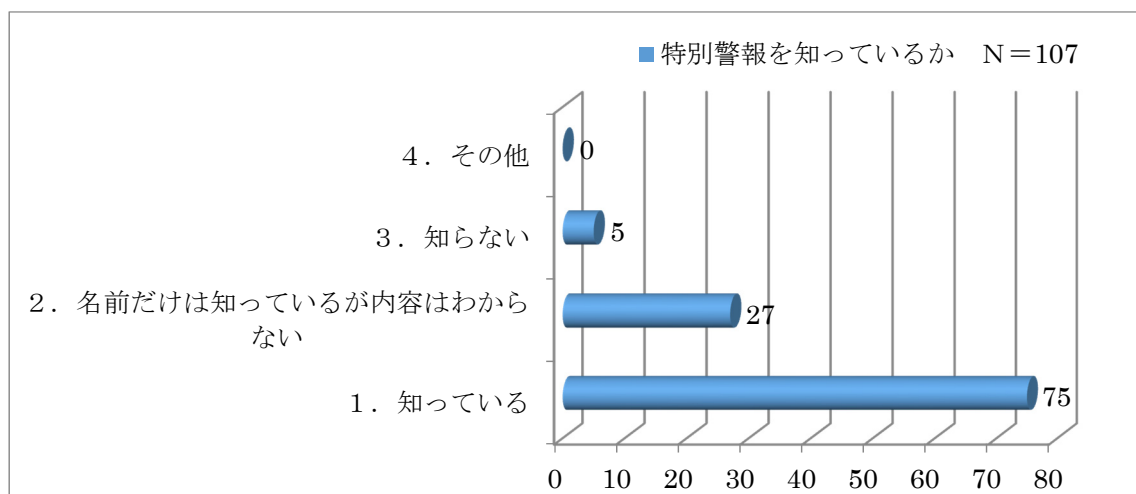
1. 知っている
2. 名前だけは知っているが内容はわからない
3. 知らない
4. その他



知っているが 80 人と認知度が高いのは、アンケート調査を行う前の 8 月に住民説明会を開催したこと、大島町広報誌に記事を掲載したことの効果であると考えられる。

【問 13】あなたは特別警報をご存知ですか。

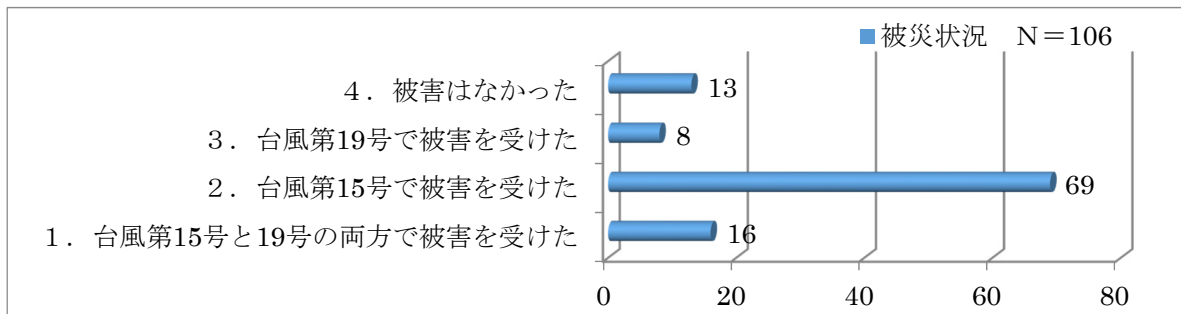
1. 知っている
2. 名前だけは知っているが内容はわからない
3. 知らない
4. その他



知っているが 75 人であり、説明会・講演会・広報誌の効果であると考えられる。

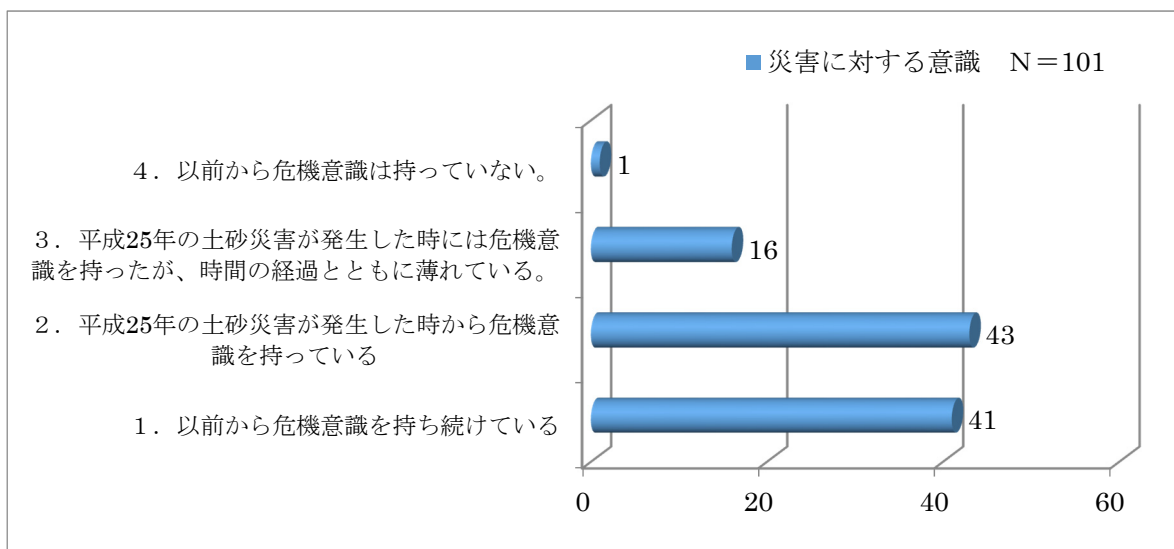
【問 14】 今回の台風による被害について伺います。次のどれに該当しますか。

1. 台風第 15 号と 19 号の両方で被害を受けた
2. 台風第 15 号で被害を受けた
3. 台風第 19 号で被害を受けた
4. 被害はなかった



【問 15】 平成 25 年の土砂災害時と比べて、現在のあなたの災害に対する危機意識に変化はありますか？

1. 以前から危機意識を持ち続けている
2. 平成 25 年の土砂災害が発生した時から危機意識を持っている
3. 平成 25 年の土砂災害が発生した時には危機意識を持ったが、時間の経過とともに薄れている。
4. 以前から危機意識は持っていない。



83%（84/101 名）が危機意識を持っており、16%（16/101 名）が薄れてきていると答えた。危機意識を持っていないのは 1%（1/101 名）に過ぎない。

【問 11】大島町では、注意喚起、気象情報、避難情報等を防災無線放送、ツイッター、エリアメールで住民の皆様にお知らせしています。これらの情報は、台風が接近する前の対策や避難の判断などに参考になりましたか。また、今後、必要と思う情報や伝達手段について教えてください。

【参考になった情報】

- ・ 天気情報、避難所開設の情報、交通網情報。（複数あり）
- ・ 気象情報、テレビやスマホで入る情報、NHK 防災アプリ情報。（複数あり）
- ・ 防災無線、エリアメール、ツイッターによる情報。（複数あり）
- ・ 大島についての気象情報、エリアメール・・・とても切実感があった。
- ・ 早めの気象情報は良かった。注意喚起放送は良かった。心構えができる。（複数あり）
- ・ 防災無線放送が頻繁にあるので安心している。
- ・ 全てです。大変参考になりました。（複数あり）
- ・ 19 号では不安感が強かったので注意して見たり聞いたりしたので助かった。
- ・ 防災無線による情報が参考になりましたが、作業などをしていて聞こえないことがありますので、何回か放送していただけると助かります。
- ・ 気持ちの準備等事前に聞くことにより楽だった。
- ・ 防災無線やエリアメールでの情報があったので、今回は避難すべきと多くの人が避難所へ行ったので、大切だと思う。
- ・ 19 号では防災無線で早くから情報が伝達され警戒区域の方は避難した。
- ・ 大島町からの情報は気象庁からの情報の伝達で、行政無線での伝達内容はマスコミ等の情報で町民はすでに知り得ていた。

【必要と思う情報】

- ・ 台風情報、大雨情報、避難情報。（複数あり）
- ・ 時間ごとの雨量、累積の雨量。（複数あり）
- ・ 風速について、何時ころからどのくらい強くなるか知りたい。
- ・ 台風進路予想、規模等についてはテレビ等の情報があるが、より具的な大島に対しての台風のどんな影響が予想されるのか等がわかるとよい。
- ・ 過去の被災事例では大島では降雨量が累計で 300 ミリを超えると被災することが知れている。降り始めてからの総雨量と降雨強度の強い降雨についての情報を知らせてほしい。
- ・ 15 号のときに静かになった時があったが、それが台風の目に入った時でその後も大きな危険があるという様なことも難しいと思うが知らされるといい。
- ・ 最低でも 3～4 日前に情報があればよい。
- ・ 避難になる場合、準備が必要であり、その時間を確保したい。そのためには、避難所が開設される 1～2 時間前には開設されるという事前放送があればと思う。

- ・避難時、身近な放送があると便利です。例えば避難所へ行く路の案内（狭いとか暗いとか）があるとお年寄りの方には安心感があります。
- ・現在、避難所に何人くらいの人が集まっているとかを知らせていただくと皆が行っているから私も行くかなどの判断が出来るのではと思われる。逆に避難者が少なくなる可能性もあるが。
- ・具体的な情報、道路の通行止めや冠水、川の増水、可能なら大金沢などの堆積坑の増水状況など。
- ・停電の情報、停電の地区と停電をしていない地区、停電時の開通情報、断水。（複数あり）
- ・災害対策本部からの正確な情報を各地区に伝達願いたい。
- ・大島では南部と北部で気候（雨・風）にかなりの差がある。15 号では南部でどれだけの風が吹いたのかという素朴な疑問が解消されていない。元町と北の山の 2 ヲ所のみで計測するのではなく南部地区にも風速・雨量等を計測することが必要と思う。具体的には 3 中、つつじ小あたりに測定のための器具を置き測定したらどうか。台風 15 号はどんな台風だったのか、竜巻はどうだったのかなど南部地区の特殊な地形を含め、正しく実態をつかむことから対策が考えられると思う。“南部では相当の風が吹いていたと思われる”では困る。
- ・今回のものでよい、特になし。

【伝達手段】

- ・防災無線、エリアメール、SNS、ツイッター、スマホ、テレビ、有線放送等。（複数あり）
- ・防災無線での情報伝達量には限りがあるので、ツイッターや町のホームページに災害情報ページを特設するなどして住民が必要な時に必要な情報に簡単にアクセスできるようにするとよいのではないかと思います。
- ・防災無線に防災無線ならではの良さもあるので、使い分けるべき。
- ・エリアメールを通じてこまかく情報がくるとありがたい。停電などで情報が入らない場合、メールで現況を知らせてほしい。
- ・隣近所での声の掛け合い（各戸にリーダーが声をかける方法など）が、その家（年寄りの家）の人の不安を取り除き避難の判断が出てくるのではないかと思います。
- ・風雨が激しいときには無線の設置してある部屋以外では聞こえないことも多いです。
- ・防災無線に関しては聞き取りにくい。声の通る人だとわかるけど、強雨だと本当に聞きにくい。まわりの人たちも言っているののうちだけではないと思う。
- ・防災無線がたよりなので、大いに参考になった。ただ、強風下での放送は、多少ボリュームを上げて欲しい。
- ・大島町ネットワークを使い要配慮者に伝達する。
- ・今回のものでよし。

防災対策に関するご意見・ご要望など自由にお書きください。

【情報に関すること】

- ・ 停電情報、断水、復旧にかかる時間と原因の周知。（複数あり）
- ・ パトカー、消防車等がサイレンを鳴らしていれば緊迫感を感じ、避難する人が多くなるのではないか。
- ・ 情報が多いと、またかと思うのでタイミングが必要では。

【防災対策に関すること】

- ・ 今回大きな課題となったのは災害発生後の対応だった！停電・断水の情報の不足（停電・断水の事実は分かっているのだから原因や解消の見込み等の具体的な内容がほしい）。
- ・ 対策はかなりなされたと思うが、被害を受けた後の対応がうまくなされなかったのではないかと思います。
- ・ 15号台風のときの役場の対応が遅かったのではという声もある。災害が起きていることについて役場全体がどう対応するかという対策が不十分だったのでは・・・。
- ・ 役場職員の被害状況把握についての行動についても不満の声が多くあがっていた。これらを含め対応マニュアルを作り、役場内で共通理解を図ることが必要だと思う。
- ・ 電気、電話が使えなくなった時、東電、NTTへの連絡をどうすればできるか、住民の立場で解決策を考えてほしい。
- ・ 停電の際、東電に連絡しても電話が繋がらない。後にカスタマーセンターに連絡がとれたが、島の状況が分からず、東電には問題がある。
- ・ 停電対応、倒木対応、被災家屋への対応、断水の対応、すべてが複合的に結びついているが、特に停電・断水の対応が重要であると思う。
- ・ 東電、NTT等このような時は大島の事務所と直接連絡がとれるようにと思う。
- ・ 停電に備え自家発電の充実が必要である。
- ・ 断水対策として自家発電の備えをして水源に備えておけないものではないでしょうか。
- ・ 水道配水場に停電に備え自家発電の設置が必要である。
- ・ ブルーシート等の資材調達ももっと方法があったのではないかと（住民からの提供、土建業者からの提供、買い取り）。
- ・ 事前準備として土のうステーション（個々で土のう袋につめる）ありがたい。
- ・ 道路の雨水の流れをスムーズにする対策を！！
- ・ 津波に対する関係で都は海拔、町は標高と提示してあるが、統一すべきと考える。どこの町に行っても海岸に近い場所は標高とは明記されていない。
- ・ 子供の時から台風にあっているが、今回の様な怖い目に会ったのは初めてです。4日前からの注意喚起で、やはりTVを見たり、注意しました。これは良かったと思います。今後よろしくお願いします。

- ・災害発生前の対応については、この間、よく努力されていて情報等もよく伝わるようになったと思う。
- ・住民の声、希望等すべて聞きとり入れることは困難と思いますが、今後ともぜひ柔軟に対応、検討していただいて、より良い方向にいければと思います。
- ・あいつぐ台風で、それに対する全島的な対応、避難所の対応等ほんとに役場の方（中でも防災対策室）は大変だったと思います。ご苦労様でした。
- ・ハザードマップの今一度の更新及び住民への伝達。

【避難行動、避難所に関すること】

- ・避難したいが、ためらうのは避難所、今後のことを考えて学校を避難所に建替えてください。ふるさと村からの避難者もいるので。
- ・避難はしたいが、毎回ためらうのはあの避難所とってしまうから。今後を考えれば決して今のままの避難所では対応できないのは目に見えています。どうか旧学校をこわして避難所を作ってください。泉津は、ふるさと村からも避難して来られることがあります。長期間の避難を考えて本気で考えてください。
- ・体調が悪く他の人にうつすといけないうので避難しなかった。
- ・避難所へ避難したくても高齢者と同居しているため無理です。
- ・冷暖房完備していただきたい。車椅子使用者のためにはトイレ使用时、女子トイレは狭く、スリッパも履きかえなければならず、大変だったと思います。
- ・泉津地区は 65 歳以上の高齢者が他の地区より多く、一人住まいの比率も高いため少しでも早めの避難所開設をしていただきたい。
- ・今の避難所の収容能力がどのくらいか。
- ・今後、このような大型台風が起こることがあると思う中、地域センターだけで収容できるのでしょうか。
- ・トイレに関しては以前と変わらず。トイレの洋式の増設。
- ・高齢化が進んでいる大島では避難所につきましてトイレの洋式化が必要と思います。早急に対策をお願いします。
- ・ダンボールベッドの数をもっと増やして欲しい。
- ・北小体育館は古いので、せめて空港駐車場を開放してほしい（トイレくらいは？）。
- ・避難所に TV がありニュース等を見ることができた。
- ・避難所の部屋によってはテレビが無く、今の時間の情報が分からなかった。
- ・つつじ小学校について、車のないお年寄り、移動が大変だったと後日聞きました。場所と移動について考えて欲しい。
- ・高齢者をいち早く避難させる手段でよい方法を見つけたいと思う。自分自身は何人か避難所まで連れて行きましたが。

- ・一人暮らしで動けない土砂災害警戒区域に住まいの方が班の中にいますが、対応がどこでどうされたかわかりませんでした。
- ・共助について要支援者の対象者が判るような手段が必要。
- ・要支援者（一人暮らしの高齢者）は大島全体で〇人、元町〇人の避難所への対応はどうするのか。（複数あり）
- ・要支援者の対応者がわかる様な手段が必要。
- ・弱者に対する消防団、町、各関係団体の細かい協力が必要である。
- ・避難所については、若干課題はあると思うが解決に向かっていると思う。
- ・避難所はコンクリート等の堅固な建物なら住んでいる近くのそういった施設に避難してもよいのでは？風雨の強いときだけ一時的に避難させてもらえば助かると思うので。例えば一中や椿小でも高い階にいれば安全性が高まる。
- ・避難勧告、指示がでてでも避難所まで行くことが難しい時がある。今回、19号のときに開発センターがいっぱいになったと聞きました。人数が多くて他へ回されるはちょっと困ります（雨、風がひどい中で）。
- ・避難所の運営、過ごしやすいといえない。長期間かかることも想定する必要がある。
- ・各地の避難所はそれぞれ1カ所にすべき。大島では①地震・津波②噴火③高潮・強風・台風の3種類の災害対応が考えられるが、この場合はこの避難所へ、この場合はここへというのでは混乱する。1カ所とし、その避難所に施設、設備などを集中するとよい。例えば、クダッチは老人福祉会館ではなく波浮地区と同じにつつじ小・3中とすべき。
- ・15号のときにすごかったから、19号のときに避難した。（複数あり）
- ・はじめて避難したから（避難所の改善された点は）よくわかりませんが、これから台風があつたら避難したいと思います。
- ・つつじ小は音が静かで台風が静かに去っていった気がしました。お手洗いもスロープになっていて高齢者が多かったので助かりました。皆さん安心した顔をして和気あいあいと過ごせました。睡眠もグッスリととれました。
- ・つつじ小は出入口にトイレが近くて高齢者に喜ばれた。きれいでよかった。各教室や特別室に具合が悪くなった人を移動できて良かった。今後つつじ小が良いと大勢の人が言っていました。
- ・野増防災センターの完成により、避難所として安心感があります。ただ、高台にあるため、お年寄りが避難しにくいのが問題です。例えば、道のサイドに手すりを設置したらどうでしょうか。
- ・床にシートを引いただけでなく、厚いマット、簡易ベッド、本格的なベッドなどが多く用意され、とても体が楽であった。
- ・19号のときに道路狭いため木が倒れて通行止めになった、道路の木の整備、避難経路の整備が必要。（複数あり）

- ・役場の職員に女性 3 名がいて、それだけでも少し空気がなごんだと思う。以前は男性ばかりで、顔見知りでもないため、私たちに話しかけてくれることもなく、年寄りはこちらにいいものか落ち着かない人もいた。
- ・避難された方の話で役場の方の対応がとても親切でよかったということを聞いています。
- ・停電したとき、消防団の対応がとても良かった。

【自主防災組織に関すること】

- ・自主防災組織の見直し。
- ・私の自主防災班内に足腰や車椅子使用者等、自力で避難所に避難が困難な方がおられます。この方々についてその存在については、名簿等に記載もされ確認済なのですが、問題はその方々の救出方法について何の計画も出来ていないことです。町として、この方々の救出方法についてすみやかに立案してもらいたい。
- ・避難時の自主防災組織の声かけはなされているのか。体制や防災活動の今後は？
- ・今日のこの会への参加者数を増やすにはどうしたらいいのだろう。名称も含めて検討してもいいのではないか。
- ・連絡会は度々開催してほしい。
- ・最優先は自主防災組織の活動の充実を図る。訓練、各企画（防災）への参加数増を目指す。声掛け、送迎等。避難時の時間の有効活用、意識高揚。

【防災意識に関すること、その他】

- ・災害を防ぐために最も重要なことは行政に頼るのは大事であるが、各人が自分の命は自分で守るという意識を持つことであると思います。
- ・たとえ空振りになっても必要な準備をしておくことが大事だと思いました。
- ・非常食、何をどの位、よく分かりません。
- ・今回の台風第 15 号では予想をはるかに超える被害があり、自然の恐ろしさを強く感じた。亡くなった人が出なかった事は不幸中の幸いであった。
- ・内閣府の判定基準が厳しすぎる。よって保険会社の資金もそれに左右され困っている。
- ・台風第 15 号の最大瞬間風速 47.1 メートル、これまでの最大 2005 年台風第 11 号 57 メートルとなっています。大島のアメダスは測候所と空港いずれも島の西側です。このため、北～東～南からの風は弱まって観測されます。アメダスの観測ポイントを南部地区にも設置して、災害予防に役立たせてはいかががでしょうか。今回の 15 号による大木の被害は竜巻なのか台風そのものの暴風なのか、広範囲で被害があるので、竜巻とは考えにくいのでは？私の畑周辺差木地 2 番地でも直径 50 センチを超える大木が折れています。
- ・毎年災害が起きていて考える力もない。長いものにはまかれてしまう。人間の力では自然の力にはかてない。